



Air Port「トウキヤウ」飛行機から見た羽田の國際飛行場です。中央かすかにトウキヤウの標識見え、帯狀の白線は滑走路です。滑走路の右端は離着陸場、左端は格納庫その他格納庫前に飛行機が見えます。八月二十九日獨逸の女鳥人エツツドルフ女史が飛來の際開場しました。

まだ一部分の竣功に過ぎませんが、全部竣功の曉には航空路の發達につれて名實共に世界の航空港として繁昌するでせう。詳細は工事畫報第六卷七月號參照。(日本空中作業會社撮影)

工 事 タ イ ム ス

昭和六年十一月號

信濃川發電所水路工事伺 濃川發電所建設に關する諸種の準備は既報の如く着々進められ先づ同發電所建設の第一着手工事とされる水路のトンネル、一軒五百米に關しては過般來地質の調査及び施工の方針に就いて協議が進められてゐたが最近施工に對する萬端の準備が整つたのでいよいよ近く工事に入ることとなりこの程信濃川電氣事務所より本省に正式の工事伺ひが提出された。

前田發電所認可 工事施行認可前に着手し問題を起した東邦電力前田發電所は此程漸く遞信省より認可された、右發電所工事は既に大部分完成してゐるので十一月より規定運轉が開始出来る見込みである。

欽明隧道愈よ着工 曩に本年度第三次國鐵建設線として認可された岩徳線の欽明隧道施工に就ては爾來山口建設事務所にて準備が進められてゐたが最近機械設備が整へられるにいたつたので

は鐵道省直轄にて施工されるものであるが工事は可成り困難を極めるものと豫想されてゐる。

二線の線路認可 曩に熊本建設事務所より提出されてゐた國鐵建設線水俣線 深川一山野間の線路は今回正式選定認可されることとなつた、尙東京建設事務所々管八高線誕生一寄居間に對する線路選定伺ひも今回同時に正式認可された。

宮崎縣營電延長線認可 宮崎縣營電氣では東鉄肥驛より同縣那珂郡鉄肥町大字本町地内にいたる延長線の敷設工事を進めてゐたが最近漸く完成し、いよいよこの程より運輸營業を開始した。

六甲山索道 ほかれて工事中の處九月二日正午開通した。

京阪半高架開通 京阪電鐵の守口、蒲生間半高架線は十月十四日開通。

京成東京乗り入れ工事進む 京成電車の日暮里乗り入れ線新設

いよゝ十月末より具體的工事に着手されることとなつた、尙工事

工事は既報の如く目下工事中であり既に八割程度の進捗振であると

兩羽橋の架替認可 山形縣内國道第十號飽海郡西平田村と東田川郡新堀村の境界にある最上川兩羽橋は昨今腐朽が甚だしく交通に危険を感じてゐるので内務省仙臺土木出張所に於いて鐵橋に架替を計畫してゐたが、このほど當局の認可も得たので近く工費六十九萬八千五百十七圓を投じて鋼結構橋に架け替をなすことになつた、この橋は附近に裏日本第一の酒田港を控えて交通が頗る頻繁である處から橋の幅員は二十六呎八吋とし總延長は七百十三米餘である。

開渡の可動橋 工費の關係から先頃内務省方面に於いて非難の聲があつた東京市隅田川開渡に架設される可動橋は其後市當局に於いて内務、大藏兩省に對して屢々事情を説明し諒解に努めた結果漸くこのほど架設の内諾を得た、當局の諒解成立と共に市側では可動橋として豫算を約五十萬圓を支出し直に測量並にホーリングに着手することになつた。(本誌第六卷第二號參照)

佐世保市では未だ上水道敷設なくこれが設置は市民多年の要望でもあるので市當局では愈々實現の肚を決め來年度豫算に新規事業として一部計上する事となつた。

ソヴェツト政府の鐵道を指導して先般無事歸朝したる、鐵道省技師加藤仲二氏等五人の歓迎午餐會を九月二十八日帝國鐵道協會に於て開催した。當日の參會者約二百名に及び古市、斯波の兩男爵も來會し、別府丑太郎氏の歓迎辭、加藤仲二氏の答辭、古川阪次郎氏の挨拶等があつて近來の盛會であつた。

行政整理と土木官會議 内務省所管土木關係の行政整理案に對する土木局の反對氣勢益高まり、急電に應じてはせ參じた全國土木技術官の緊急會議が十月四日午前十時から神田の學士會館で開かれた。

本省技術官首腦部眞田(東京)高西(神戸)辰馬(名古屋)坂本(大阪)坂本(仙臺)木津(横濱)の六出張所長物部土木試驗所長、東京、千葉、埼玉、茨城、神奈川、静岡の各府縣土木部課長、技師等約五十名それに中川技監、第一、二課長も傍聽の形式で出席し、場内は異常な緊張に包まれた。

まづ本省谷口技師は二日來の經過を報告、宮本技師から三日の會合において作成した反對決議の説明をなし、次に中川技監は三日次田次官との會見顔本と上司の意向を報告的に説明して谷口技師から決議文又は意見書の提出可否について一同の意向を聴取したと述べて各出席者の發言を要求すれば第一に金森東京府技師起つて、

今回の無謀なる整理案に對す

る我々の反對意見は公正なもので世間が既に共鳴して居るからあくまで貫徹を期さればならぬ

と述べたのをはじめいづれもそれぞれの立場から反對論を述べ全國の技術官が團結して内務大臣のみならず大藏大臣に直接運動をすることになり兩大臣にあてた左の意見書、實行方法及び全國土木部課長あてに送る通牒を作成したなほ全國四千五百人の判任官もこの運動に合流して同一步調をとることになつた。

意見書

大藏省提出昭和七年度豫算編成方針に現はれたる内務省土木局行政整理案は内務省直管土木事業の大部分を地方に移管し補助金制度を採用

し從來の地方分擔金の歳計繰入を廢止することによりて單に形式的國庫豫算の緊縮を行つたに止まり國家百年の大計を誤るものにしてがうも事業遂行上の弊害及び不經濟を顧みずしかも數千人の官吏及び雇よう員の生活を脅成するものなり我等はこれが犠牲たるに忍びずこれに反對す。

藤井眞透氏講演 十月七日九ノ内の海上ビル新館講堂に於て、土木學會講演會を開催され、『軌近に於ける歐米諸國の道



稱名(シヨウメウ)瀧 富山縣營稱名發電所(出力6,000K.W.)はこの瀧の下流約一哩の地點より取水するものにて目下盛んに工事を進め居候。稱名發電所と既設眞川發電所との放水を合流せしめて發電する縣營小見發電所も目下工事中に候、これは出力20,000K.W.にて、共に明年度竣功の豫定に候。稱名瀧は落差約400米有之、水量は常時約六七十個に不過候も、この落差を利用する發電所の計畫も目下着々進められ居候。(小山田二郎)

路』と題し内務技師藤井眞透氏の講演があつた。何時も乍ら聴講者の割合に少いのは多少の理由があるとしても兎に角に他の學會に比して土木方面が不振である事を物語る様だ。

藤井氏は本年北米合衆國に開かれた萬國道路會議に出席し、歸途歐洲各國の道路關係を視察して、最近歸朝した新しい土産話を約二時間に涉り述べられた。藤井氏が經驗上から特種の視方をされてゐるので聴講者も非常に満足してゐた尙ほ藤井氏が在外中に蒐集された、實際的な參考寫真圖は、近く本誌に掲載される筈である。